

よるコンピュータ支援手術を導入し、従来の手術と比較してより正確な人工関節手術が可能となりました。脊椎セクターでは、脊椎、脊髄の様々な疾患や救命救急センターと連携し脊椎・脊髄損傷の治療にも対応できるよう心がけております。また、地域医療ネットワークを通じて、地域のクリニックや診療所の先生方との連携を密にして泉州地区の地域医療に貢献できるよう心がけていきたいと考えております。

今後とも泉州地区の基幹病院としての役割を果たすべく、また地域医療に貢献できるよう精進していききたいと考えております。



呼吸器センター長兼
呼吸器外科部長

桂 浩

皆様、明けましておめでとうございます。赴任以来、もう7回目の年始を迎えました。ただ昨年も、「マンパワー」という当科を取り巻く環境は好転の兆しのみえない1年でした。そういう状況で、診療が無事に終えられたこと、この場を借りて、関係各位には、深謝致します。今年も、「西年」、公私とも、少しでも前向きに「飛翔」できる1年にしたいものです。まずは、内向き、診療体制に何らかのイノベーションを計るべき時期かもしれせん。

いづれにせよ、今年も、少しでも満足してもらえ医療の提供を目指したいと思っております。関係各位の皆様、よろしくお祈り申し上げます。



周産期センター
新生児医療センター長兼
小児科部長

住田 裕

泉州南部では、地域の小児科医減少に歯止めがかからず、乳幼児健診やワクチン接種など、小児保健分野を維持することが困難な状況が続いています。さらに、分娩数・小児人口も減少し続けているのが実情です。また、平成29年度から他の診療科に先駆けて小児科の専門医制度が始まります。不透明な部分が多い中、2015年4月から始まった定期乳幼児健診の合同二次健診（すこやか健診）、地域小児医療、小児保健を維持していくことが今後重要な課題です。皆様のご理解・ご協力のほど、よろしくお祈りいたします。



小児科
新生児科部長

和田 芳郎

近年、小児医療・保健に二つの波が押し寄せています。子ども虐待件数の増加と少子化の波です。

当センターでは平成28年秋から、児童虐待対策委員会が実働しております。センター各部の多職種で構成され、関わった事例は地域行政機関と情報を共有し、医療と福祉が協力して対応することを目的としています。

少子化という時代の波に流されないためには、安心安全なお産を提供する事に加えて、より充実した子育て支援・家族支援が提供できる周産期センターへさらに成長する事が大切だと考えます。子育て情報やご家族のニーズは時代とともに変遷しますが、親と子に本当に必要なものは時代で変わることはないからです。

これからも、センターの機能を発揮して対処してゆく所存でありますので、ご理解とご協力、また、ご指導と鞭撻のほど、宜しくお祈り申し上げます。



周産期センター
産科医療センター長兼
産婦人科部長

萩田 和秀

りんくう総合医療センターではオープン以来、産科医2人以上が待機し安心・安全に重点を置いてきました。それだけでなく、正常妊娠・正常分娩の方にも満足して分娩・育児していただくため、産後健診の導入、妊産婦メニューの一新をしました。また、面会制限を撤廃いたしましたのでご家族であればごなたでも赤ちゃんに面会ができます。

皆様が安心してお産ができるようスタッフ一同頑張っていくつもりですのでどうぞよろしくお祈りいたします。



泌尿器科部長

萩野 恵三

皆様、明けましておめでとうございます。泌尿器科の萩野です。地域の皆様、地域医療の先生方のおかげをもちまして、当地では泌尿器科の特に手術による診療需要がとても多く、やりがいを感じております。2017年も外来、手術室、病棟のスタッフならびに常勤医師3名の協力体制で努力していく所存です。何卒よろしくお祈り申し上げます。



耳鼻咽喉科部長

裕田 猛真

あけましておめでとうございます。日頃から皆様方にはお世話になり誠にありがとうございます。

当科は、本年1月より当科医師1名の退職があり、3名となつてしまいました。手が回りきらず、皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、本年もよろしくお祈りいたします。



口腔外科部長

大前 政利

今年も干支10番目の酉年です。(訓)と(音)ゆうで、元は液体を入れる壺の象形文字です。そう言われると、上の「一」が蓋、細いクビのツボの底に液界面がありますね。酒では《つくり》ですが、元々は《とりへん》。分ける意味を持つ「己」をつけて、ツボに入れて《配》る。酒が発酵し過ぎると、抜きんでる意味の《爰》がついて《酸》化する。エタノールが酸化するとアルデヒドを経てカルボン酸になり、作るの意味を持つ「乍」がついて《酢》になる。全うする意味をもつ「卒」(卒業など)の略字「卒」がつくと《酔》で、飲酒を完遂した状態。では覚醒の《醒》は？星は澄みきつた光を放つものという意味があり、この文字が酒《酔》いから《醒》めるという意味になるらしい。なんだか、金八先生になつてしまいました。。。

私の椅子の右にはやはり『死而後已』と書いてあります。今年も診療・手術・学術・遊学に走り続けますので、何卒宜しくお祈りいたします。



診療局長補佐兼
中央手術室長兼
麻酔科主任部長

小林 俊司

「初心を忘れずに」
あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。

麻酔科は前期研修医の必修になっており、常に若いドクターが回ってきます。彼らの目の輝きを見てみると、懐かしい気持ちになります。私はこの科がやりたいという特別な希望はなかったのですが、手術室の緊張感と活気ある雰囲気が好きで、麻酔科医になりました。今でも毎朝手術室へ入る時には、気持ちの引き締まる思いがします。近年、社会の高齢化などで、手術症例数の増加、重症化が著しいですが、初心を忘れずに、職責を果たしていきたいと思ひます。



麻酔科部長

足立 匡司

新年明けましておめでとうございます。日頃より各診療科先生、看護師、薬剤師、事務職員の方をはじめ様々な部門の皆様にご多大なるご協力およびご支援をいただき本当にありがとうございます。昨年麻酔科部長を拝命し、本年におきましても、小林部長の指導のもと、麻酔科スタッフとともに泉州地域における手術、麻酔診療においてさらなる貢献をさせていただき所存でございます。今年も同様にご指導、ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。



中央検査部長兼
病理診断科部長

今北 正美

昨年は、めずらしく感冒に罹患して、10数年ぶりに3日間休みました。実質、1人でやっているのの仕事が山のようにたまり、平常のペースに戻るのに1週間は要しました。いままで、休んでも1日だったので、積み上げられた標本には辟易しました。今年は、健康に留意して、こつこつと仕事をこなしていきたいと思ひています。



リハビリテーションセンター長兼
リハビリテーション科部長

榎谷 昭一

あけましておめでとうございます。昨年度9月より土、日曜日の終日リハビリテーションを達成しました。又4月から外来心臓リハビリテーションの本格運用開始しています。私事ですが、小生3月にて定年退職致します。19年間に渡り、諸先生方並びに関係各部署の方々にはひとかたならぬご支援ご鞭撻を頂き感謝致しております。りんくう総合医療センターの益々の発展を祈念致しまして、年頭の言葉に替えさせていただきます。



大阪府泉州救命救急センター所長兼
Acute Care Surgeryセンター長兼
重症外傷センター長

水島 靖明

新年あけましておめでとうございます。また、平常より、救命救急センターの運営に、ご協力をいただいております。誠にありがとうございます。当センターでは、重症外傷センター、外傷機能部門、血管内治療部門、高度脳損傷・脳卒中センター、ACSセンターなど、各専門診療科と協力して高度治療が



大阪府泉州救命救急センター副所長兼
血管内治療部長

井戸口 孝二

できる機能を構築してまいりました。おかげさまで、患者数も大幅に増やすことができているので、今年も各科と連携を密にしながら、患者様に最適な医療が提供できるよう努力していきたいと思ひております。

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

大阪府泉州救命救急センター副所長兼血管内治療部長として、今年も地域の皆さまとともに、地域医療に貢献できるよう努力して参ります。血管内治療につきましては、専門外来を行っておりますので、お気軽にご相談いただけましたら幸いです。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。



国際診療科部長兼
健康管理センター長

南谷 かおり

明けましておめでとうございます。昨年はリオのオリンピックで日本も史上最多のメダル数を獲得し、大いに沸きました。また訪日外国人数は初めて2000万人を突破し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて政府は目標4000万人を打ち出しました。それに伴い当院の外国人患者数も確実に増えています。日本人だけでなく外国人にも安心・安全な医療を提供できるよう、日本の「おもてなし」を発揮したいと思ひます。



看護管理室
副看護局長

鈴木 千晶

昨年、英訳された宮沢賢治の「雨ニモマケズ」の絵本を、英語で表現するとういう風になるのか興味があり購入した。題名は「Rain won't stop me.」である。まりが「Rain won't stop me.」である。様々な事が起こっても止まらず前へ進んでいく気持ちを持つ事が大切だと教えられた気がする。



看護管理室
副看護局長兼
教育責任者

井出 由起子

今、日本はかつてない超高齢社会を迎え、医療提供のあり方は「病院完結型から地域完結型へ」大きな変革の時期となっております。急性期病院の看護師も視野を広く持ち、患者さんの未来像を描きながら関与することが求められています。地域の中で安心した暮らしを送るためには私たち看護師が地域の中で医療・看護・介護の連携を行うことが求められています。看護師個人の自律性やパフォーマンスへの期待が高まっていると実感します。ひとりひとりの力がより発揮でき役割を遂行できる一年となれるように取り組みたいと考えます。